

参考資料 3

国際的動向を踏まえたオープン
サイエンスの推進に関する検討会
(第9回)
平成31年2月21日(木)

第8回 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会

議事概要(案)

1. 日 時：平成30年12月27日(木) 15:45~17:45

2. 場 所：中央合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室

3. 出席者：(敬称略)

引原(座長)、喜連川(副座長)、有川、家、小賀坂、黒川、末吉、関口、高木、谷藤、林、村山の各構成員、山地教授(国立情報学研究所)梅澤参事官、赤池参事官

4. 議事

(1) 事務局説明

国立研究開発法人におけるデータポリシー策定ガイドラインに関する解説資料、データリポジトリ整備・運用ガイドライン、および研究データ基盤整備と国際展開ワーキンググループの設置について説明があった。

(2) プレゼンテーション

山地教授(国立情報学研究所(NII))よりNII研究データ基盤整備の推進状況等についてプレゼンテーションが行われた。

(3) 主な意見交換等

(国立研究開発法人におけるデータポリシー策定ガイドライン解説資料について)

○ガイドライン策定過程において検討会での議論、各省照会の際の質問等を再度整理し、解説資料に盛り込むかどうか検討するべきである。

○データポリシー策定の主体は法人あるいは機関であるが、データの流通という観点では法人や機関の単位を超え、様々な専門コミュニティの中で利活用されることが望ましく、解説資料内でもデータが広く流通するよう記載を検討すべきである。

(データリポジトリ整備・運用ガイドラインについて)

○国際認証基準を参考にすることも重要である一方、日本としてデータリポジトリの整

備・運用をどのように進めていくのかという方向づけについても、一定の考え方を示すことができるか検討する必要がある。

○構成案のうち「人的基盤」については、データリポジトリの運営の際に必要な新たな人材の育成・配置のみならず、現在は、データリポジトリ運営のための人材と認識されていないような人材の活用等も含む項目として整理すべきである。

○研究分野の特性の違いにも配慮しつつ、データの受け入れ基準、提供基準、利用規約のようなデータリポジトリが持つべきポリシーや、データリポジトリの商業的利用に関する点などについて、ガイドライン内で一定の考え方を示すことも一案。

(NII研究データ基盤整備の推進状況等について)

○NIIでは、共同研究者間で非公開のままデータを管理する管理基盤、管理基盤で管理されているデータを公開するための公開基盤、公開基盤で管理されているデータを一体的に検索でき、さらに世界の検索システムとも連携した検索基盤の3つの基盤の開発を進めている。

○管理基盤は研究者が活用しやすいと感じられるような機能の強化、公開基盤はワークフローの精緻化、検索基盤については、他の分野のデータベースのデータを取り込みながら精緻化を進め、2020年の本格運用を目指している。

(「研究データ基盤整備と国際展ワーキンググループ」の設置について)

○我が国独自の研究データ基盤を構築し、国際連携等により我が国のプレゼンスを向上させるための議論の場として、本検討会のもとに「研究データ基盤と国際展開ワーキンググループ」を設置する。

○ワーキンググループでは、データ収集・管理のプラットフォーム全体のグランドデザイン、資金管理団体等におけるデータ収集・管理に関するガイドライン、大学・研究機関における研究データの収集・管理計画のひな型などを議論する予定である。

5. その他

○次回は、2月下旬での開催予定とする。